

## さらに進化を遂げた カリマーの名作「リッジ」

同社の中心的存在とも言えるのは、やはりカリマーのザックです。中でもオールラウンドで人気の高い「リッジ」の新モデルについて、広報の稲田さんが紹介してくれました。

「バックパネルをはじめとして、いかに疲れないようにするかという点を中心に改良されたんです」  
たしかに、手にとった時の重量感はどこへやら、背負うとザックの方から背中を吸いついてくるようです。リッジと言えどもはや評價は確立しているも同然ですが、そのスタンダードにも磨きをかけて続けているというのがブランドのブランドたるゆえんでしょうか。  
トレッキングにおける理想のザックとは、ザックの実重量がマインナスされることですが、このリッジはそれに忠実に応えてくれます。実際に夏の立山を2日間共にし、そう実感した次第です。

ridgeの特徴をよみなく的確に語る稲田さん。ご本人も山の愛好家なだけあり、道具に対する愛情とこだわりが伝わってくる。



## 山の日のアラカルト イベント 獅子ヶ鼻 トレイルにて 医療・ 介護器具の 体験会が 開催

今年初の施行となる「山の日」を記念して、全国ではさまざまなイベントが開催されました。

その中の一つ、協会の認定トレイルである静岡県磐田市の「獅子ヶ鼻トレイル」でも、小さなイベントが開催されました。名古屋の朝日産業(株)が開発発売した「ハイテク尿管器」の体験会です。前立腺などの病から頻尿で悩み、山歩きどころか外出そのものがためらわれる男性諸氏に向けての対策器具を実際に装着して、獅子ヶ鼻トレイルを歩いてみようという試みです。

### 自然な装着感と外見で 参加者から好評価

参加者は19名。企画内容からほとんどが中高年男性です。愛知県から参加した人は、「普段は琵琶湖周辺の山をよく歩きます。磐田市にこんなトレイルルートがあったなんて知らなかった」と、本格的なトレッキングコースにいたく感心した様子です。浜松から参加したとい

う男性に器具の装着具合を聞いてみると、「つけると違和感はほとんどないね。もっとも僕は頻尿ではないですよ」とのこと。備えあればの体験会です。装着感も自然なようですが、外見上からも器具を装着していることはまったく分かりません。

装着してトレイルした参加者からは次々に感想が飛び出します。「岩場をよじ登る時など、ふくらはぎに固定されている受けのカップのマジックテープが少しずれるかな」、「試しに出してみたよ、座っていてもなんとかなるね」。

ほかにも「バスなどでは具合いいんじゃないかと思うね」との意見も。確かに、頻尿気味の人は渋滞リスクのあるバス旅行を諦めがちとよく聞きます。装着しているだけで安心というか、尿意という心理的な要素も大きい現象に対しては、薬のプラセボ効果とも通じる点があるかもしれません。

### 想定外の反響に手応え メーカーと開発者の声

この器具は「Mr.ユリナー」というもので、排泄の自立を支援する目的で開発されたそうです。今年1月の発売以来、すでに1,200個ほどが売れているとか。メーカーの担当責任者である医療機器事業部の辻本さんによると、「当初は年間500個も売ればと計画していたのですが、想定以上の反響で驚いています」とのこと。

開発を担当したのは、ヘアー



デザイナー(理容師)の神山さんです。実は神山さんは俗にいう街の発明家でもあり、「Mr.ユリナー」の特許も取得しています。ご自身が前立腺の手術を受けたことからこの器具を発想したそうで、「行動力と青春を取り戻せます」と自信をもって答えてくれました。

### 獅子ヶ鼻トレイルを 支えるのは10人の侍

当日は、3人のガイドにお世話になりました。ガイド長の平さん(獅子ヶ鼻トレッキングコースボランティアの会会長)と、磐田市職員の藤本さん、敷地外四ヶ字財産区議会議員の市川さんです。平さんは古くから日本山岳ガイド協会に所属する筋金入りの山の専門家。藤本・市川

左にスタッフの浅井さん、右に樋口さんを従え、「Mr.ユリナー」を掲げてニコリの辻本さん。右の写真は開発者の神山さん。



両氏も山歩きが一番の趣味だそうです。

「ガイドをしない時はスコップや鎌、つるはしを手にトレイル整備の日々です」と平さんが日に焼けた顔をほころばせます。

獅子ヶ鼻トレイルにはほかに7人のボランティアガイドが在籍。平さん達を含めた合計10人の“侍”によって、この本格的なコースが支えられているようです。

※「Mr.ユリナー」はメーカー直販です。問い合わせ先 TEL / 052-684-6829。



この日ガイドを務めた市川さん、平さん、藤本さん。獅子ヶ鼻トレイルの縁の下の力持ち達です。

